

小学校・中学校・高等学校における保健授業の指導
方法に関する研究：
大学生を対象とした保健授業の実態調査より

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, 朱音, 鎌塚, 優子, 野津, 一浩 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024673

小学校・中学校・高等学校における保健授業の指導方法に関する研究

— 大学生を対象とした保健授業の実態調査より —

山崎朱音*・鎌塚優子*・野津一浩*

Research of instruction method of health education in elementary, junior-high and high school

— from actual condition survey of university students —

Akane YAMAZAKI*, Yuko KAMAZUKA*, Kazuhiro NOZU*

Abstract

The purpose of this research is to reveal the actual condition of health education in elementary, junior-high school and high school and to study the instruction method of health education. By questionnaire survey, we have obtained from questions contents of impressive health education class and its reasons on free description bases.

The survey demonstrated that students were impressive in change in body, diet, exercise, rest and sleeping elementary school, were impressive in development of mind and body, influence of smoking, alcohol or drug abuse in junior-high school and were impressive in influence of smoking, alcohol or drug abuse and emergency treatment in high school. It is necessary for teachers to associate content of class with day-to-day life in elementary school, to consider contents of class based on change in mind and body and associate it with the class in junior-high school, and to encourage self-learning to acquire knowledge in high school. For teachers, association between subjects, corroboration with third-party teachers, repetitive instruction and device of class make an impression to students and have them understand the contents of class. The teachers need to understand worth of subject “health education” and need to show its “frame of mind” to students.

キーワード：保健授業，指導方法，授業内容

I. 問題の所在

情報化やグローバル化といった社会的変化の進展を背景に、昨今、日本においては戦後最大の教育改革が行なわれている。こういった現状そして未来に対応するには、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って係わり合い、その過程を通じて、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の作り手となる力、これまで学校教育において重視してきた「生きる力」を身につけられるようにすることが重要である（中央教育審議会，2016）。それには、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現が、これからの教育課程の理念として重要である（中央教育審議会，2016）。また、これまでの

「何を学ぶか」を重視した教育だけではなく、「何ができるようになるのか」を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）を取り入れた教育が望まれている。

平成 29 年新学習指導要領の第 1 章総則には、「学校における体育・健康に関する指導を、児童・生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行なうことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること」が示された。さらに、心身の健康の保持増進等に関する指導については、「体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行なうこと」が示されており、教科横断的な視点に立った児童・生徒の資質・能力の育成が求められている（中央教育審議会，2016）。また、それらの指導を通じて、「家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活

* 静岡大学大学院教育学領域保健体育系列

力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること」が示され、体育科・保健体育科の「社会に開かれたカリキュラムマネジメント」の必要性が示された。

また、社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもたちの心身の健康状態や健康に関わる行動に大きく影響を与えている。例えば、運動不足等の生活習慣の乱れ、過度なストレスなど、心身の健康課題が表面化してきている（文部科学省，2013）。

日本の学校教育において、子どもたちが健康に関する学びをする教科は、小学校においては体育科保健領域、中学校においては保健体育保健分野、高等学校においては科目保健である。そもそも保健教育は、「子ども自身が、保健教育で身につけた資質や能力を活用して、生涯にわたって主体的に健康や体力を保持増進するために、自らの課題について考え、行動することができる「確かな学力」の育成を目指している（文部科学省，2013）。同時に、「健やかな体」の向上、「豊かな心」の育成につながる指導の実践も求められており、充実した保健教育を着実に推進することが「生きる力」を育むことにつながるのである（文部科学省，2013）。昨今の子どもを取り巻く環境の変化に対応するには、「保健」授業による「生きる力」の育成が急務ともいえる。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（中央教育審議会，2016）において、体育と保健の一層の関連を図った内容について改善を図ることが示された。それを踏まえ、平成29年新学習指導要領では、小学校体育で「各領域の内容については、運動領域と保健領域との関連が図られるように留意すること」が、中学校保健体育では「体育分野と保健分野で示された内容については、相互の関連が図られるように留意すること」が明示された。また、例えば小学校体育保健領域においては、生活習慣病の予防に適切な運動が必要であることなど、具体的に健康と運動の関連を図った内容が示されている。まさに、体育と保健のカリキュラムマネジメントを求められている。

これまでも、保健学習の実態調査が行われてきた（和唐ほか，1981；野村1982；渡辺，1982；後藤ほか，2000）。和唐ほか（1981）が行なった調査では、印象に残る授業があったのかという質問に対し、印象に残る授業があると応えた者が22.3%、印象がないと応えた者は76.5%であった。そのうち、印象に残った授業内容は、男子で「性病」について、女子で「人工呼吸、包帯法」が第1位であり、実習教材や視聴覚教材を使った授業が上位を占めた。また、文部科学省（2013）が行った保健授業の実態調査は、保健の学習意欲の状況や保健の知識の習得状況についてであり、現行の学習指導要領に沿った授業内容については検討されていない。

そこで本研究では、小学校、中学校、高等学校における保健授業^{注1)}の授業内容に着目して、保健授業の実態を明らかにし、保健授業の指導方法について検討することを目的とする。

II. 方法

1. 時期・対象

調査時期は、平成29年10月25日から11月8日にかけて実施した。

調査対象は、S大学に所属する「健康体育II」を受講している大学生330名とした。対象を大学生と設定したのは、過去の授業内容を振り返り、保健授業についてどのような印象を持っているのかを明らかにするためである。

質問紙部の回収数は300部（回収率91%）であった。質問項目のうち未記入の回答がみられたが、記入漏れと判断されたため、回収した全てを有効回答とした。そのため、集計時には総回答数を示すこととした。

2. 調査方法

調査方法は、無記名式自記式質問紙法を用いた。授業内に本調査の趣旨を説明し、同意を得た者について回収した。

3. 調査内容

調査内容は、以下の5項目からなる7つの質問で構成した。授業内容に対する印象は3件法で、印象に残った内容とその理由は自由記述で回答を得た。

- | |
|-----------------------|
| 1. 基本属性の項目 |
| 2. 小学校の「保健」の授業について |
| (1) 授業内容に対する印象 |
| (2) 最も印象に残った授業内容とその理由 |
| 3. 中学校の「保健」の授業について |
| (1) 授業内容に対する印象 |
| (2) 最も印象に残った授業内容とその理由 |
| 4. 高等学校の「保健」の授業について |
| (1) 授業内容に対する印象 |
| (2) 最も印象に残った授業内容とその理由 |

各校種における保健の授業内容については、各校種の学習指導要領を基に作成した。例として、小学校の単元①「毎日の生活と健康」を示す。①--1以降の下位項目は「授業内容」と表記する。

- | |
|--|
| ①「毎日の生活と健康」 |
| ①-1 健康とは、体と心の調子がよい状態であることであること |
| ①-2 心と体が健康であることは、人とかわりながら明るく充実した毎日の生活を送れることにつながる |
| ①-3 食事、運動、休養及び睡眠をとることが必要であること |
| ①-4 手や足などの清潔、ハンカチや衣服などの清潔を保つことが大切であること |
| ①-5 健康の保持増進には部屋の明るさの調整といった生活環境を整えることが必要であること |
| ①-6 健康の保持増進には換気といった生活環境を整えることが必要であること |

なお、各校種の授業内容における項目数は以下の通りである。

小学校	
単元	授業内容数
①「毎日の生活と健康」	6
②「育ちゆく体とわたし」	6
③「心の健康」	3
④「けがの防止」	5
⑤「病気の予防」	8
中学校	
単元	授業内容数
①「心身の機能の発達と心の健康」	9
②「健康と環境」	5
③「傷害の防止」	6
④「健康な生活と疾病の予防」	12
高等学校	
単元	授業内容数
①「現代社会と健康」	18
②「生涯に通じる健康」	6
③「社会生活と健康」	7

4. データの処理

得られた回答はデータ化し、単純集計を行った。また、自由記述の回答については、分析は帰納的アプローチの手法の一つである Mayring の内容分析のプロセスにしたがって行った。授業終了後の自由記述から、保健の授業で印象に残った理由について具体的に記述されている箇所を抽出しコード化、類似する内容を分類しカテゴリー化した。抽出されたカテゴリーを

【 】、サブカテゴリーを [] 生データを「」で示す。なお、自由記述の回答に複数の内容が含まれている場合は、それぞれの内容に集計した。

III. 結果と考察

1. 単元・授業内容に対する印象

(1) 小学校

小学校の保健授業の単元・授業内容に対する印象は、表1の通りである。

印象に残っていると答えたのは、単元にまとめると②「育ちゆく体とわたし」が55%と最も多く、次の

で⑤「病気の予防」46%、④「けがの防止」45%、①「毎日の生活と健康」44%、③「心の健康」41%であった。②のうち、授業内容についても6項目中5項目で半数以上が印象に残っていると回答した。中でも61%と最も多かったのが②-2「体の変化には個人差があること」であった。②以外では、①-3「食事・運動・休養及び睡眠をとることが必要であること」が67%、⑤-7「喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為は健康を損なう原因となること」が63%と上位の回答であった。

最も印象に残っている②-2「体の変化には個人差があること」は、第二次性徴期を迎える年代の子どもたちにとっては大変身近な話題であり、授業内容と自己の状況が合致するため授業内容が印象に残ることが示唆される。また、食事・運動・休養及び睡眠といった、日々の生活に直結する内容であるため、印象に残りやすいことが推察される。

(2) 中学校

中学校の保健授業の授業内容に対する印象は、表2の通りである。

印象に残っていると答えたのは、単元にまとめると①「心身の機能の発達と心の健康」が51%と最も多く、次いで④「健康な生活と疾病の予防」48%、③「傷害の防止」46%、②「健康と環境」35%であった。①の中でも65%と最も多かったのが①-2「発育・発達には個人差があること」であった。①以外では、④-5「喫煙・飲酒・薬物乱用は心身への様々な影響を与えること」が73%、④-4「生活習慣の乱れと生活習慣病などにはつながりがあること」が66%と上位の回答であった。

思春期の中学生にとっては、発育・発達は今身に起こっている話題であることから、授業内容に興味をもったと考えられる。また、喫煙・飲酒・薬物乱用といった授業内容については、その危険性を改めて学ぶことから印象に残りやすい授業内容であることが推察される。

表1 小学校保健授業の単元に対する印象

	①「毎日の生活と健康」	②「育ちゆく体とわたし」	③「心の健康」	④「けがの防止」	⑤「病気の予防」
印象に残っていない	335 (19%)	211 (12%)	203 (23%)	286 (19%)	472 (20%)
どちらでもない	672 (37%)	599 (33%)	330 (37%)	538 (36%)	822 (34%)
印象に残っている	792 (44%)	989 (55%)	363 (41%)	671 (45%)	1094 (46%)
合計回答数	1799	1799	896	1495	2388

表2 中学校保健授業の単元に対する印象

	①「心身の機能の発達と心の健康」	②「健康と環境」	③「傷害の防止」	④「健康な生活と疾病の予防」
印象に残っていない	320 (12%)	344 (23%)	309 (17%)	552 (15%)
どちらでもない	992 (37%)	625 (42%)	665 (37%)	1324 (37%)
印象に残っている	1375 (51%)	524 (35%)	818 (46%)	1707 (48%)
合計回答数	2687	1493	1792	3583

(3) 高等学校

高等学校の保健授業の授業内容に対する印象は、表3の通りである。

印象に残っていると答えたのは、単元にまとめると①「現代社会と健康」が52%と最も多く、次いで②「傷害に通じる健康」42%、③「社会生活と健康」38%であった。①の中でも73%と最も多かったのが①-6「喫煙や飲酒は、生活習慣病の要因になるなど、健康に影響があること」、次いで①-7「薬物乱用は、心身の健康、社会の安全等に対して様々な影響を及ぼすこと」71%、①-18「心肺停止状態においては、速やかな気道確保、人工呼吸、AEDの使用が必要であること」69%であった。①以外では、③-1「人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁などは人々の

健康に影響や被害を及ぼしたりすること」のみ52%と半数を超える結果となった。

飲酒・喫煙・薬物乱用など、その危険性を知ることはもちろんのこと、自分の身にも起こりうるという危機感をもつことによって授業内容が印象に残りやすいことが推察される。また応急処置や心肺蘇生法などの緊急事態への備えについても、その必要性を理解したことによって授業内容が印象に残ったのだと推察される。

①「現代社会と健康」には、健康の考え方、健康の保持増進と疾病の予防、精神の健康、交通安全、応急手当と多くの内容が含まれている。また、それらが高校生にとって身近な話題であることから、印象に残ったとの回答が多いことが示唆される。

表3 高等学校保健授業の単元に対する印象

	①「現代社会と健康」	②「生涯に通じる健康」	③「社会生活と健康」
印象に残っていない	607 (11%)	274 (15%)	391 (19%)
どちらでもない	1979 (37%)	777 (43%)	901 (43%)
印象に残っている	2800 (52%)	748 (42%)	807 (38%)
合計回答数	5386	1799	2099

(4) 校種間の比較

印象に残った単元・内容を校種でみてみると、表4・5の通りである。小学校では体の変化や食事・運動・休養及び睡眠について、中学校では心身の機能発達と喫煙・飲酒・薬物乱用について、高等学校では喫煙・飲酒・薬物乱用や応急手当が挙げられた。

表4 校種別 保健授業の単元に対する印象 (回答率)

小学校	
単元	回答率
②「育ちゆく体とわたし」	55%
⑤「病気の予防」	46%
④「けがの防止」	45%
①「毎日の生活と健康」	44%
③「心の健康」	41%
中学校	
単元	回答率
①「心身の機能の発達と心の健康」	51%
④「健康な生活と疾病の予防」	48%
③「傷害の防止」	46%
②「健康と環境」	35%
高等学校	
単元	回答率
①「現代社会と健康」	52%
②「生涯に通じる健康」	42%
③「社会生活と健康」	38%

表5 校種別 授業内容に対する印象 (回答率)

小学校	
授業内容	回答率
①-3「食事・運動・休養及び睡眠をとることが必要であること」	67%
⑤-7「喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為は健康を損なう原因となること」	63%
②-2「体の変化には個人差があること」	61%
中学校	
授業内容	回答率
④-5「喫煙・飲酒・薬物乱用は心身への様々な影響を与えること」	73%
④-4「生活習慣の乱れと生活習慣病などにはつながりがあること」	66%
①-2「発育・発達には個人差があること」	65%
高等学校	
授業内容	回答率
①-6「喫煙や飲酒は、生活習慣病の要因になるなど、健康に影響があること」	73%
①-7「薬物乱用は、心身の健康、社会の安全等に対して様々な影響を及ぼすこと」	71%
①-18「心肺停止状態においては、速やかな気道確保、人工呼吸、AEDの使用が必要であること」	69%

小学校・中学校では、自分自身の身体の発育発達という、今自分の体に起こっていることとリンクさせた内容が印象に残りやすいことがわかった。特に小学校では、食事・運動・休養及び睡眠が自分の生活に密着した内容が印象に残ることから、保健の授業づくりの工夫として、授業と授業外の日常生活を連係させ、知識と実践が結びつくように授業を計画していくことが必要であると考えられる。

中学校・高等学校においては、健康の本質を理解して自分の身近に潜む危険について学ぶ内容が印象に残った。自分の身近な話題としてその危険を捉え、様々な方面から「自分の健康を考える」ことが必要であることがわかる。

高等学校においては、印象に残る授業内容から「倒れている人を助ける」といった、自己の健康・安全だけではなく、他者の健康・安全にも視野を向けることができ、そこに興味をもてることがわかった。つまり、社会生活を営む一員として活かされる知識・技能の習得が目指されていることが推察される。

2. 「印象に残った授業内容とその理由」

(1) 小学校における授業内容が印象に残った理由

小学校で学んだ内容がなぜ印象に残ったのか、7の категорияと23のサブカテゴリーが生成された。【】にカテゴリー、[]にサブカテゴリー、「」に代表的なデータを示す。最も多く生成されたのは【学習内容と自己】であり、次いで【自己の心身】【授業外の時間との関係】【授業づくり】であった(表6)。

小学校の特徴として、[授業内容の印象]に「手の洗い方」や「食事・運動・休養及び睡眠」が挙げられたことである。これは、【授業外の時間との関係】のうち「健康行動の習慣化への工夫」や「授業外の指導」が挙げられたこととも関連すると考えられる。「ハンカチやティッシュ、爪切りなど毎日チェックする先生がいた」というように、授業で学んだことを実生活の中で活かす取組がされていたことが推察される。つまり、[生活とのつながり]がある内容が、授業内外を通して指導されており、保健の授業内容が基本的な生活習慣として日常生活の中に取り入れられていたことが推察される。

また、【授業外の時間との関係】[授業外の指導]には「男女部屋を分けて行なった」とある。[自己の発達段階との関連性]に「実感が伴っていたため」とあるように、第二次性徴の中にある自身の心身の変化と授業内容が関連し、なおかつそれが通常の授業とは異なる状況(男女別々に授業が行なわれることや、養護教諭による授業)で授業が行われることにより、印象に残りやすいことが推察される。

さらに【授業づくり】[外部講師の活用]に「毎年薬物の講座があり警察官が危険さを教えてくれた」や「薬剤師から薬物の講習を受けた」のように、外部講師の活用により、授業内容が印象に残りやすいこともわかった。

以上のことから、小学校保健授業は保健授業と授業外との時間の関係を持たせることにより、授業内容と個々の生活が結びつき、授業内容に対する印象が深まることが示唆される。また、それらが習慣化し、基本的な生活習慣の形成に繋がるということが重要であると考えられる。

(2) 中学校における授業内容が印象に残った理由

中学校で学んだ内容がなぜ印象に残ったのか、8の категорияと26のサブカテゴリーが生成された。【】にカテゴリー、[]にサブカテゴリー、「」に代表的なデータを示す。最も多く生成されたのは、【学習内容と自己】【授業づくり】【活動形態】であった(表7)。

中学校の特徴として、【自己の心身】[自己の発達段階との関連]に「思春期真っ只中であること」や「心の発達」が挙げられていることがある。【学習内容と自己】[授業内容の印象]に「ストレスへの対処法」、【自己と周辺環境】[身近な話題]に「わりとストレスを感じていて身近な話題だった」がある。このことから、思春期(第二次性徴)を向かえ、自己だけではなく他者や環境との関係の中で生じるストレス等にも興味・関心うまれたことにより、それに関する授業内容が印象に残るのだと考えられる。

【授業づくり】については、[外部講師の活用]や[印象に残る視聴覚機材の提示と活用]も、授業内容を印象深いものにするには必要なことであるといえる。専門性の高い外部講師による講習や視聴覚機材は、具体的なイメージがわかりやすく、学習者の理解が伴いやすいことが推察される。特に薬物依存などの内容は、「DVDなどの動画でみた薬物乱用者の再現映像が印象的で怖かった」というように、その危険性が伝わりやすいことがわかる。

さらに、【活動形態】「体験型の学習方法」の生成数が51個と最も多かった。これは、「実際にAEDを使って体験した」のように、心肺蘇生法を体験したことが挙げられている。実際に体験することにより、授業内容が印象に残りやすいことがわかった。また、中学校で[ディスカッション]や[ロールプレイング]の活動形態も挙げられた。このことから、【活動形態】の工夫により、授業内容が学習者の印象に残りやすいことが明らかになった。

中学校から新たに、【授業外の活動】「調べ学習」や「テスト」も生成された。このようなテストを目的とした知識の習得も、授業内容の理解には必要であることが推察される。

以上のことから、中学校においては自己の体の変化を捉え、それと関連させた授業内容が印象に残りやすいことがわかった。また、視聴覚機材の活用や外部講師の活用、さらに体験型の学習方法など、様々な指導者の工夫が学習内容の印象の残りやすさを左右することが示唆された。

表6 小学校 保健授業が印象に残った理由

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なデータ	データ数
自己の心身【37】	経験との関連性	・怪我をすることが多かったので手当はしっかり学ぼうと思っていたから(3) ・自分はよく風邪をひいていて、その対策のようなもので印象に残っている ・食生活の内容について小学校の頃、給食がほとんど食べられていなかったから	17
	自己の関心事との関連性	・スポーツをしている人は特に気をつけるべきだと言われたから ・小学校の時は今よりも偏食がひどかったため、しっかりと食事をとらないといけないと思ったため	4
	自己の発達段階との関連性	・自分は周りより背が低く体格も小さく発育が遅かったから ・小学校6年生は異性への関心がピークだった年頃だったから ・思春期になると体の変化が起こることに不思議だと思ったから	16
自己と周辺環境【23】	身近な話題	・早い時期に体の変化が起こった友だちがいたから ・小学校の頃の保健の授業で思春期に関する授業にやけに興味を持ちながら受けていた気がする ・自分の将来の危険、それが身近にあると知ったから	11
	生活のつながり	・健康であるためには食事、休養、睡眠がとても大切でどれが欠けてもいけないと習った印象が強いから ・よく手洗いやうがいをするように言われていたのでハンカチを持つことなども含めて覚えている	12
学習内容と自己【58】	授業内容への興味	・食事、睡眠、運動は全て大事だと思ったから ・病気、怪我について興味深かったため	2
	学習内容の理解	・どれか1つだけ特化しても、どれか1つだけ欠如していてもダメで、バランスよく質のよい食事、運動、休養及び睡眠をとることが必要であることをよく知っているため ・精神と身体の関わりについて納得できたので覚えている	3
	授業内容の印象	・病気にはいろいろな種類があることを初めて知って驚いたので印象に残った(3) ・手の洗い方について正しく洗った場合とそうでない場合を比較した手がすぐ違ってびっくりしたから ・副流煙という吸っている本人よりも周囲のほうが被害を被ることが印象的だったから	31
	学びによる新たな気づき	・体だけがよい状態でも健康とは言えないということが印象に残っているから ・人がどのように成熟するのか理解できたから ・小学校の時はあまり心の健康ということについて知らなかったので印象に残っている	16
	将来に役立つであろう期待	・けがをした時の対処法で、幹部を高くするなどの知識を得たこと ・その授業の後から、クラス内で喚起をしよう運動が始まり寒かったから	3
	分かりやすさ	・よく寝てよく食べてよく動くという食事、休養、運動の3要素は覚えやすく分かりやすいものだったから	1
授業づくり【34】	印象に残る教材の工夫	・配布される資料のイラストや写真が気持ち悪くて強く印象に残っていたから ・喫煙や薬物などを長年続けた人の写真が衝撃的だったから	9
	印象に残る視聴覚教材の提示と活用	・事故が起きる動画を見せられたのがとても怖かったから ・赤ちゃんが生まれる過程について映像や紙芝居で学習したから	9
	具体物の活用	・照度計をつかったから ・黒い肺などの写真付きの下敷きを配られたので覚えています	2
	外部講師の活用	・警察の方々が来て、交通安全教室が開かれ、実際にスタントマンの方が事故の再現をしたのが小さい頃には衝撃的だった ・外部の人が来て劇などを用いて詳しく説明してくれたから	12
	専門性の高い教員からの講義	・食生活についてはその専門の先生に講義してもらったため	2
活動形態【15】	体験型の学習方法	・応急処置の実習をしたから(2) ・心肺蘇生法を実施したから	12
	ディスカッション	・家での食事や睡眠時間について周りの人と話し合いをして情報の共有をしたから ・イラストを見ながら、どこに危険があるのか会話を覚えている	3
授業外の時間との関係【37】	健康行動の習慣化への工夫	・ハンカチやティッシュ、爪切りなど毎日チェックする先生がいた	1
	定期的・繰り返しの指導	・手洗いうがいの大切さについて何回も説明されたから(3) ・喫煙、飲酒、薬物乱用は1年に1回聞かされていたため覚えている ・衛生管理の徹底をかなり教え込まれたため	16
	授業外の指導	・男女分かれて先生から話をきいたから(5) ・手洗いうがいを学校で徹底されたから(3) ・保健だよりで配られていた内容にあったため	21
教員の個性【3】	教員の印象	・先生の絵が面白かった ・薬物乱用について覚えており、先生が特に強調して説明していた	2
	教授の丁寧さ	・健康の基本3原則であり、3つのバランスが良好な状態でなければいけないと丁寧に教えて頂いたから	1

()内は同じ内容のデータをまとめた数

表7 中学校 保健授業が印象に残った理由

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なデータ	データ数
自己の心身 【18】	経験との関連性	・非常に共感できた内容があったから ・実際に交通事故にあっているから	5
	自己の発達段階との関連性	・まさに思春期まっただ中であり共感する部分や気をつけようと思うことがあったから ・異性に対する欲求が自分の中でも生まれていた時期だったので ・この時期は不安定で自分でも自分のことが不安に思っていたので理由が分かって安心した	13
自己と周辺環境 【16】	身近な話題	・静岡は災害が起きると言われているため特に力を入れて授業していたため ・副流煙のほうが主流煙よりよくなく、タバコをよく吸う人が身近にいたためタバコが嫌いだったから ・いじめとかの環境について学校で問題になっていたから	10
	生活のつながり	・生涯的な健康、これからのライフステージについて考えることをよく学んだ ・教室の明るさ適切な明るさにしたときに意外と暗くて驚いたから	6
学習内容と自己 【70】	授業内容への興味	・当時から食に関心があり、栄養士になりたいと考えていたから(2) ・ストレスを感じ始めた時期でもあったため意識して聞いていた	8
	学習内容の理解	・心と体は密接な関係があり、心が傷つくと体にあらわれるということ ・思春期のことに関する授業で男女での身体づくりの違いや生理現象の違いを詳しく知ることができた ・心肺蘇生法はどのような手段で人命の危機を救助できるか学ぶことができたから	10
	授業内容の印象	・心の健康の話が多かった(3) ・ポジティブ変換とか中学生ながらなるほど思ったり楽しくやったりしたのを覚えているから ・シンナーとか麻薬についてはちゃんと聞いてた覚えがある ・性についての授業は印象的だった	36
	学びによる新たな気づき	・自分が事故を起こす時に環境要因もあり得るのだと思ったから ・実際にグラフを見せてもらい、思った以上に快適がせまいことに驚いたため ・生活習慣病のことが特に印象に残っている、自分には関係ないと思っていたけど、とても割合高いことを知ったから	8
	学んだ内容の活用	・部活での怪我に使えると思ったら(2) ・未成年による飲酒や喫煙は特に体への害が高まるというのを聞いて大人になるまで興味本位でやろうとするのをやめた記憶があるから ・ストレスについて思春期だったので様々なことを考えるようになったから	8
授業づくり 【65】	授業の雰囲気	・心身の機能の発達でクラスで盛り上がったから	3
	授業内容の取り扱い	・やたら自己啓発について教えられた記憶があり、それと関連していたから	9
	授業の方法	・癌、心臓病、脳卒中が日本人3大死因を連呼させられた	1
	印象に残る教材の工夫	・応急手当により傷害の悪化を防止できることを教科書でたくさんの説明図を用いていたのでよく覚えている ・飲酒や喫煙、薬物などによって体がどうなるか実際の写真などを見て驚いたから	6
	印象に残る視聴覚教材の提示と活用	・麻薬や覚せい剤のビデオを見て薬は間違った方法で使うと恐ろしいことになるという強い印象を受けた(3) ・薬物乱用防止のための講習会があり結構怖い動画を見たから(3)	20
	具体物の活用	・本物の麻薬を見せていただいたのも印象深い ・薬物乱用を防ぐためにパンフレットが配られ、説明を受けたこと	2
	外部講師の活用	・講演会で薬物依存について学び、どれだけ危険かを知ることができたから(6) ・心肺蘇生の実習、消防士さんと一緒にAEDをつけたり、心臓マッサージをして最後に消防士さんのリアルな話を聞いて濃い内容だった	23
活動形態 【56】	他教科との関連	・現代社会でも取り扱うから 家庭科など	1
	学習活動	・身の回りの飲料水に含まれる糖分の量のクイズをクラス全体で行ったから	2
	体験型の学習方法	・実際にAEDを使って体験したから(26) ・赤ちゃんの重さを実際に体験する授業が体験型だったので印象に残っている	51
	ディスカッション	・飲酒喫煙に対してディスカッションをした	1
授業外の時間 との関係【6】	ロールプレイング	・薬物などに誘われた時、どう断るかのシミュレーションでみんなの断り方が面白かったから(2)	2
	授業外の指導	・全校で授業をした(4)	5
授業外の活動 【10】	定期的・繰り返しの指導	・授業を毎年行ったから、また、静岡県の学校だったこともあり、地震が発生した時の対処の仕方や周りの人への応急手当などは実習も行いながら勉強した	1
	調べ学習	・心身ともに健康にいるためにどういった食事や運動、環境の整え方が必要かということを調べ学習で各自のテーマに沿って授業が行われたため	1
教員の個性 【4】	テスト	・テスト勉強の時に一生懸命暗記したから(5)	9
	教員の印象	・AEDのことについて先生が熱く話していたので印象に残っている ・心肺蘇生法はいざという時に使えるように先生が特に熱心に説明していたから	4

()内は同じ内容のデータをまとめた数

表8 高等学校 保健授業が印象に残った理由

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なデータ	データ数
自己の心身【13】	自己の発達段階との関連性	・ちょうど悩んでいたこともありタイムリーだったから ・当時の自分が感じていたフラストレーションに関係していて、この授業をきっかけに少し自分を客観的に見られるようになったから	13
自己と周辺環境【22】	生活とのつながり	・報道などでもたまに薬物問題などが取り上げられており、授業でも見聞きする内容だったから ・働きすぎて死んでしまうことは自分にとって衝撃的だったから ・感染症について、自分にも関わり得るものだから	13
	身近な話題	・生活習慣病が若い人で増えていることを知り、身近な問題に感じたから ・交通事故が年々多発してきており、それは身の回りでもすぐに起こりえるものだったから	9
学習内容と自己【72】	授業内容への興味	・ストレス対処法などの授業でストレスがたまっていたので興味をもって授業を受けられたから(3) ・適応機制が人によってばらばらで観察していて面白かったから	11
	学習内容の理解	・健康になるには生活習慣を正しくするだけでなく、社会的な健康も必要だと学んだから ・健康水準の向上について、死亡率の推移が時代の背景を物語っているように思えたから ・男女のつながりについて、尊重し合うことの大切さを知った	20
	授業内容の印象	・授業を受けて納得しながら聞いていた記憶があるから(2) ・日本の健康運動について詳しく授業でやった ・四大公害病の授業で過去に実際にあった事例として印象に残っている ・感染症予防と災害、防災について印象に残っている	29
	学んだ内容の活用	・ストレスなどの発散法をみつけることができ、自分なりのストレス解消法を知ることができた(2) ・このことを聞いて自分に自己実現の欲求があるのか疑問に思ったことがあった	9
	将来役立つであろう期待	・高校は今までの通学距離がのび、事故現場を目にすることが増えたため、いざという時対処できるようにならないかと思ったから	2
	授業態度	・唯一ちゃんとやったら	1
授業づくり【47】	授業内容の取り扱い	・心身の発達について何度も言われたから	5
	授業の方法	・教科書ままの穴埋めや人体の様々な筋肉の穴埋めが印象的だった	2
	他教科との関連	・公民の授業とつながっていて、深く勉強したから ・好きな科目と関連があったから	8
	外部講師の活用	・薬物乱用のセミナーがあったため(4) ・実際に消防署の方が来てAEDの使い方や人工呼吸の仕方を練習したから(2) ・交通事故についてJAFの人が話に来てくれた、そこでドライバー視線の写真や動画がよく出ていてとても分かりやすかったから	17
	印象に残る教材の工夫	・マズローの欲求階層の図をととても覚えている(2)	5
	印象に残る視聴覚教材の提示と活用	・少し怖い動画などを見て薬物の危険性を知った(2) ・心肺蘇生のビデオを見たり、実際にやってみたりしたから	7
	学習活動	・全身の筋肉や骨の名前を覚えた(2) ・授業で自らの将来設計について各ワークシートがあった	3
	活動形態【49】	・心肺蘇生の実習の時間があり体験した(17) ・実際に消防隊員によって実技指導が行われたため(2) ・実習があつて市の消防署から認定カードをもらったから	36
活動形態【49】	ディスカッション	・自分なりのストレス対処法クラスで話し合うなどの意見交換をした(3) ・クラスでつきあいたい人と結婚したい人の条件が異なる理由を話し合ったのがおもしろかった	6
	プレゼンテーション	・興味ある新聞記事について調べて発表する授業が大変だった	4
	ロールプレイング	・薬物を進められたときの対処法	1
	グループワーク	・グループワークが多かったため	2
	授業外の時間との関係【1】	定期的・繰り返しの指導	・薬物乱用について、集会が何度もあったから
授業外の活動【26】	調べ学習	・自分で調べて理解してまとめたので印象に残っています	6
	テスト	・覚えることが多く、期末テストの時に復習をよくした(4) ・高等学校の保健が1番授業らしく行っていてテストがあった	16
	レポート	・医療についてレポート作成をしたから	3
	課題研究	・実際にこのようなテーマに関連した内容を課題として研究したから	1
教員の個性【12】	教員の印象	・先生がジェスチャー込みで話してくれたから ・先生が個性的だった	12

()内は同じ内容のデータをまとめた数

(3) 高等学校における授業内容が印象に残った理由
高等学校で学んだ内容がなぜ印象に残ったのか、8の
カテゴリと27のサブカテゴリが生成された。【】
にカテゴリ，[]にサブカテゴリ，「」に代表的
なデータを示す。最も多く生成されたのは，【学習内
容と自己】であり，【活動形態】【授業づくり】【授
業外の活動】と続いた(表8)。

【授業内容と自己】【授業内容の印象】に，「日本
の医療サービスや介護保険について」「ライフステー
ジ」「廃棄物の処理・四大公害病」といった内容が含
まれていることが，高等学校の特徴といえる。小学校
においては生活との関わり，小・中学校に共通して心
身の機能発達，中学校では飲酒・喫煙・薬物乱用が自
由記述に回答されていたが，高等学校では薬物乱用等
の回答は多いものの，単元「現代社会と健康」につい
ての回答がみられた。これは，自己の健康や安全に留
まらず，他者や社会・環境と，学習者自身の視野の広
がりや授業内容と関連することにより，印象に残りや
すいのではないかと考えられる。

さらに，【授業づくり】に【他教科との関連】のサ
ブカテゴリが生成された。他教科との関連により，
保健授業の内容がより印象付けられたことがわかった。
このことから，保健の授業を担当する指導者と関連す
る他教科の授業を担当する教員が，意図的・計画的に
授業内容に関連をもたせていくことで，多くの学習者
に教科間の関連を気づかせることになり，それが学び
の高まりを保障するものになりうると考えられる。

【授業外の活動】についても，中学校で生成された
【調べ学習】【テスト】に加え，【レポート】【課題
研究】も作成された。また，分類されたデータ数も，
中学校よりも高等学校が多かった。このことから，高
等学校では自己学習によって，授業内容の印象が深く
なったことが推察される。また，【授業形態】におい
ても【体験型の学習方法】【ディスカッション】【プ
レゼンテーション】【グループワーク】といった，知
識を伝達するだけの授業ではなく，実際に仲間と議論
をしたり体験することにより，授業内容が印象に残り
やすいことがわかる。特に高等学校においては，保健
の授業で学んだ内容が，高等学校卒業後の生活にどの
ように活かされていくのか，そのためには保健の授業
で学んだことをどれだけ覚えているのか，ということが
必要になるといえる。指導者の【授業づくり】や
【活動形態】の工夫，そして【授業外の活動】を仕組
んでいくことにより，生活に活かされる保健の知識の
定着が図られるのだと示唆される。

(4) まとめ

保健授業の授業内容が印象に残るためには，授業内
容と学習者自身の発達との関連や，授業づくりにおけ
る工夫が必要であると考えられる。

小学校・中学校・高等学校ともに，【外部講師の活
用】により，授業内容が印象に残りやすいことがわ
かった。それを【定期的・繰り返し指導】することに
より，授業内容の理解を深めることとなる。また【印
象的な視聴覚機材の提供と活用】などによる視覚的効
果，さらに【体験型の学習方法】により，イメージや
経験により知識の定着がみられる。特に高等学校にな
ると，【テスト】や【調べ学習】といった自発的な学
びが，より有効であると考えられる。まさに，新学習
指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」が，保
健の授業内容の理解には必要であるといえる。この学習
過程は，「保健」が生活に密着した内容であり，学校
教育を終えても必ず個人の生活の基盤になりうるもの
でなくてはならない「保健」の価値を理解するに大変
重要な視点であると考えられる。

保健の授業と【他教科の授業との関係】，つまり横
断的学習の授業効果も明らかとなった。また，先にも
述べた通り，外部講師による授業は印象に残りやす
いため積極的に行なうことが望ましいといえる。「保健」
の価値を様々な視点から考えることは大切な点ではあ
るが，指導者が意図して他教科の授業と関係したり，
外部講師を活用する必要がある。例えば外部講師の活
用でいうならば，保健の授業内容を日常生活の中で，
そして将来の生活の中で活かせる知識にするため，外
部講師による授業をその場のものにせず，それまでの
保健の授業との関連や授業計画の段階から外部講師に
参画してもらうこと，繰り返しの指導を行ったり，
授業外の活動とリンクさせるなどの工夫が必要である
と考えられる。高等学校では【学習内容の理解】が小・中
学校に比べ多くなった。つまり，授業内容を理解し，
それを発展させて自身の生活に応用していくためには，
授業内容が「印象に残る」ではなく，どのように理解
して知識として定着しているのかを目指すべきである
ことが示唆される。

小学校・中学校・高等学校における【外部指導者の
活用】【授業外の指導】などには，保健指導と保健学
習の混同がみられた。「保健」そのものが生活そのも
のであり，質問紙調査の対象者には，一部保健学習以
外の授業内容が印象に残っている可能性もある。その
ため指導者は，「保健」の教科の価値を見据え，これ
をおさえたいうえで保健指導と相互補完的に保健授業を
推進していく必要があると考えられる。

本調査の結果により，保健の授業と【他教科との関
係】は示されたが，「体育」授業との関係に関しては
記述がみられなかった。新学習指導要領(2017)にお
いて例えば中学校であれば「体育分野と保健分野で示
された内容については，相互の関連が図られるように
留意すること」が示されている。今後は，「体育」授
業との関連も考え，指導者は授業計画を立てる必要が
あると考えられる。

IV. 結論

本研究では、小学校、中学校、高等学校における保健学習の実態を明らかにし、保健授業の指導方法について検討することを目的とした。

質問紙調査において、小学校・中学校・高等学校において印象に残った授業内容を挙げてもらい、なぜ印象に残ったのかを自由記述で回答を得た。

印象に残る授業内容として、小学校では体の変化や食事・運動・休養及び睡眠について、中学校では心身の機能発達と喫煙・飲酒・薬物乱用について、高等学校では喫煙・飲酒・薬物乱用や応急処置についての授業内容が印象に残ることが明らかとなった。

また指導者の指導としては、小学校では基本的な日常生活と授業内容との関連を図ること、中学校では自身の心身の変化を捉えそれと関連付けた授業内容を考えること、そして高等学校では自己学習を促し知識の定着を図るといった工夫が必要であることがわかった。

特に指導者は、教科間の関係や外部講師の活用と繰り返し指導、活動形態の工夫によって学習者の授業内容に対する印象や理解が深まるといえる。しかしそこには、指導者が「保健」の教科としての価値を見据え、保健の「見方・考え方」を明確に示す必要があるといえる。

本研究では、授業時間内に行われた保健学習を「保健授業」とし質問紙調査を実施したが、回答の中には保健指導と混同している回答もみられたことが課題として挙げられる。今後は、指導なのか学習なのか、いつ行われた学習なのかを明確にしていくことが必要であると考えられる。

注

注1) 保健科教育は、「保健学習」と「保健指導」に区別される。本研究でいう「保健授業」とは、体育科保健領域、保健体育保健分野・科目保健の授業時間で行われる「保健学習」を「保健授業」とした。

参考文献

- 後藤章・小山健蔵・大道乃里江・白石龍生（2000）保健教育に関する研究第Ⅰ報—高等学校の保健教育に関する実態調査—, 大阪教育大学紀要第Ⅴ部門, 第49巻第1号, pp. 175—182.
- 保健学習授業推進委員会（2013）中学校の保健学習を着実に推進するために, 保険学習授業推進委員会平成25年度報告書.
- 文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説体育編, 東洋館出版社.
- 文部科学省（2008）中学校学習指導要領解説保健体育編, 東山書房.

文部科学省（2009）高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編, 東山書房.

文部科学省（2013）「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き.

文部科学省（2017）小学校学習指導要領.

文部科学省（2017）中学校学習指導要領.

中央教育審議会（2006）幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）.

和唐正勝・下村義夫・面沢和子・永瀬晴海（1981）生徒からみた保健授業の実態に関する調査研究学校保健研究 23(10), p474-482, 1981-10.

渡辺功（1982）中学校における保健授業の実態調査に関する研究, 学校保健研究, Vol. 24 No. 5, pp. 234—241.

渡邊睦美・鎌塚優子（2017）養護教諭の専門性を活かした保健と社会科の横断的学習の試み, 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, No.26, pp.291-300.